

なでしこ通信 第 32 号

- ◆ 新聞記事を読んで
～中学生はこう考えました～
(結婚と子供を持つことに関する意識調査結果への感想)
- ◆ 今治市男女共同参画計画案に対する批判

健全な男女共同参画をめざす会

平成 22 年 1 月 7 日

なでしこ通信 第 32 号

新聞記事を読んで ■ □ ■

■ □ ■ ～中学生はこう考えました～ ■ □ ■

昨年末の新聞(別紙参照)は、少子化に関する世論調査を載せていました。それによると、「結婚しても子供をもつことにはこだわらない」と答えた若者は、20代で63%、30代で59%にのぼることがわかりました。家族から個人へと生き方の価値がシフトする中、続く不景気の波は、少子化にいつそうの拍車をかけているようです。
この記事を読んだ中学生はどのように思ったか、ご紹介しましょう。

■ 便利なものが多すぎて

今は確かに不景気だから、というのも分かります。でも、だから「子供はいらない」というのは、さみしいと思います。私ならどんなに景気が悪くても、子供は産ませてあげたいと思います。昔の人たちは便利なものもなく、貧しい生活の中で兄弟が七人くらいいるところもあるのに、両親が力をあわせて育ててきました。そんな昔と比べたら、まだ今の方がいい環境だと思います。結婚して子供が生まれて、お父さんは仕事に行き、お母さんは家事と子供の世話をする— これがあたりまえではないのかと思います。

「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」という記事がありましたが、「ばかじゃないん」と私は思いました。今はバツ1とか、バツ2だとか、それがあたりま

えのような時代になっている気がしますけど、そういうのはちがうと思います。この間、祖母とこういう話をしていたら、祖母は「昔はどんなにケンカしてどうしようもなくなった時でも、子供のために親はおらんといかんもんやと思って離婚なんかせんかったのになあ」と言っていました。現代は便利なものが多すぎて、自分中心になっているのではないでしょうか。「自分がいやだったら捨てればいい」という考えが…。(女子)

■育児を楽しめる時代に

少子化は人の生き方が原因だということがわかりました。年齢が若いにつれ、自由でありたいと望む人が多いからです。男女とも、職業を続けてほしいものを買うという考えが多く、子供を養うお金や体力がないというのが現状です。また、職を続けるにしても、この不況では昔以上に生活が苦しくなるからというのも考えられます。

自分たち若い世代が日本の柱になっていく上で、子供を産み育てることの大切さがまた戻って、増えていけば変わると思います。育児を楽しんでいける世の中を僕たちがつくらねばならないと思います。(男子)

■私は産まれてこなかったかも

「四割、子供必要ない」この記事を見た瞬間、私は背筋がぞくっとした。もし、私の両親がこんなことを思っていたら、私はきつとこの世に産まれていなかった、と思ったからだ。私はてっきり若い人ほど子供をほしがっていると思っていたのに、予想がひっくり返り、びっくりした。私は、働きたいからとかお金がかかるからとかいって、結婚や子供を望まない女性をどうかと思う。実際自分が生まれてきたのも両親がいるからであって、今度は、その両親に自分になるべきではないだろうか。(女子)

■結婚と子供は夢

結婚したら子供がほしいと思っていました。でも子供を必要としない人たちが多いのびびっくりしました。そりゃ仕事が続けたいのはわかるけど、家族を増やしたいとは思わないのかなあ。生活は大変になるだろうけど、それ以上に楽しいと思ったらいいんじゃないのかな。結婚も個人の自由、と書いていたけど、一生ひとりというのもどうかと思いました。私は結婚もひとつの夢だし、子供ができるっていうのはそれ以上に大きな夢だと思います。(女子)

■少子化が進むと、少しずつ日本人が減っていき、最後にはゼロになってしまう。すると日本独自の文化が消滅する。さらに、日本が日本でなくなってしまう。最終的に遺産を相続するのも子供、家を継ぐのも子供なのだから、子供を産み育てていくことにより、家族は成り立つ。(男子)

■今の時代だからこそ、子育てをしなくてはならないと思います。年寄りより、若い人た

ちが国の先頭になって歩いていかなければなりません。子供は未来の希望だとぼくは思います。（男子）

■記事を読んでびっくりしました。もっと子孫を増やさないと、国が成り立たないのがわからないのだろうか。子育てはたいへんで自分の時間なくなると思っている人が多い。私も大人になるとそう思うかもしれない。けど、そんな人がどんどん増え続けると、私たちが老人になったとき、助けてくれる人がいないとたいへんなことになります。（女子）

■ぼくは将来子供がほしいと思った。なぜなら、子供を育てる喜びは、育てる人にしか分からないと思うからだ。いない、という人は、子供ができればいてよかったと思う日がくることを知らないと思う。（男子）

■親のおかげで

親になるということは、一生を過ごす上で、とても大切なことだと思います。自分たちは親がいたおかげで生まれてきたのだから、結婚したら親になって、自分の親が感じたたいへんさやうれしさなども、自分の身をもって経験することで、親孝行にもなるのではないかと思います。（女子）

■産むのは痛い？

私は親に「子供を産むのは痛いんだよね」と、きくことがしばしばあります。そのときやっぱり帰ってくる返事は

「痛い。死ぬかと思ったくらい」

なので、私はそんな死ぬほどの思いをして子どもを産もうと考えるなんて、とうてい無理です。痛いのがイヤです。子どもを産むと感動するのはよくわかります。でもそれで自分の命が危うくなるのはちょっと…でも、私のひいばあちゃんたちの子どもの数には逆に感心しますね。やっぱり「慣れ」なのかなあ…（女子）

■最初みたときはヒドッ！と思ったけど、読んだら「そうかなあー」って感じでした。でも、もし子どもをつくらなかったら、自分の世代で終わりだし、お母さんたちもぼくの子どもを見たいに決まるとし、僕も孫が見てみたいと思いました。先生の話聞いて、子ども一人あたり家一軒分くらい使っていると聞いてビックリしたけど、おれは子どもほしいです。子どもできんと生きていく中で喜びがなくなるから。（男子）

■今、世界は不況になっていて、自分一人じゃとても生活していけないと思います。だから結婚して産みたくても産めないと思います。今の時代は昔と違って、母は家、父は外のような時代ではないと思います。今の内閣は子どものためと言っているけれど、子どもを産まない人が多いのに、そんなのにお金を使うなら、その父母にお金を増やすなどのことをしたほうがいいと思います。（男子）

■私は産んだほうがいいと思った。一生で一度あるかないかのことだし、自分の子孫を次の世代につなげていきたいからです。今まで親がやってきたことを続けたい。若い世代ほど子供をもつことにこだわらないのは、自分の人生を楽しみたいからだと思った。（女子）

■「共働きでないと安心して暮らせない」という記事を読んで、うちは親が共働きじゃないけど、大丈夫か？と思いました。帰ってこの記事をみせてあげよう。（女子）

■私の家族は四人で、たまにすごいケンカをすることもあるけど、楽しいからぜったい結婚したいです。（できるかどうか…）子供もほしいです！（女子）

これから10年、15年後に親になるであろう中学生たち。意外と真剣に将来のことを考えていることが分かりました。自分たちが育ててきたような家庭をつくりたい、という思いこそが、家族のつながりを守り、少子化をはね返す力になるのでしょうか。いい環境とゆとりの生活の中で子育てをしたい気持ちはだれしも同じです。しかし、そうでない時代にこそ、苦勞して子供を産み、育てる価値観が問われているのかもしれないね。

◆今治市男女共同参画計画案に対する批判

今治市が73ページから成る男女共同参画計画案を作成し、1月15日を期限に今治市民の意見を募集しています。

問題はこの計画案にジェンダーフリー色がついていないかです。というのは、男女共同参画社会基本法がジェンダーフリー的傾向を秘めているために、推進条例や実施計画が制定される際や制定・実施後に全国各地で様々な紛糾が生じたからです。

ジェンダーフリーは、社会の中で習慣的に固定化された男女の役割分担によって女が抑圧され、虐げられてきたので、その状況を打破して女が経済的に自立し、男の束縛から脱出しなければならないという観念的女権思想で、最終的には夫婦を解体し、個人個人をバラバラにして中性化するとともに、子供を社会が育て教育することを目標とします。女は男と同じでなければならないのであり、男と女を区別することは差別と見なします。

さて、計画案についてですが、内容がジェンダーフリーそのものであることが分かります。性差別のために女性が家事や育児や介護で過重な負担を強いられているというのですが、日本の社会の実態は本当にそうでしょうか。日本の主婦はむしろ家庭の実質的主人であり、運営責任者です。そして、健全な家庭の維持を通じて社会の安定と秩序の形成に貢献しているのです。現実の認識が根本的に間違っています。

また、「性別による固定的な役割分担意識が根強く残っている」という表現があります。

せめて「理不尽な固定的役割分担」として、何をそのような役割分担と認定したか、計画案に具体的に提示するべきです。

3 ページの「男女共同参画社会とは」と題する節の最初の文章は、日本国憲法が国民に保障する権利を略述したものです。驚いたことに、たった一つのこの文章にいくつもの間違いがあります。たとえば、日本国憲法は「一切の差別を禁止」していませんし、「豊かに生きる権利を保障」していません。

それから家族について、「男女がともに協力し、家族としての役割を果たしながら…」という文もあります。なぜ主語が「男女」なのでしょう？単親や事実婚の家庭もありますが、日本の社会が法律婚の夫婦を前提とする家族を基本としていることをおそらく意図的に否定しているのでしょうか。この推測の根拠になる文が計画案の 27 ページにあります：「社会制度が家族単位から個人単位へ移行しつつあります。」これではまるで社会革命です。

このように、今治市の計画案はジェンダーフリー行政の実施を画策するものと判断されます。

☆☆ 事務局からのお知らせ ☆☆

- 今治市民の方は是非コメントを今治市へお送り下さい。計画案やコメント用紙は今治市のホームページから。ご不明の方はめざす会事務局までご一報下さい。
- 「拉致被害者の救済会愛媛」が椿祭りの境内で行われる署名・募金活動に協力させていただきます。21（日）22（月）12:00-14:00 のいずれか、或いは両日ご参加いただける方は事務局まで。
- めざす会のホームページができました。<http://www.mezasukai.com/>
- 会費の切れる会員の方には払込取扱票を同封しております。現在の会員は 702 名。やっと 700 代を越えることができました。1000 名をめざしております。この機会に周りのかたにもご入会いただけますよう、新しい方のお名前は通信欄にお書き下さい。よろしく願い致します。

健全な男女共同参画社会をめざす会

<http://www.mezasukai.com/>

事務局 〒790-0931 松山市西石井 1-3-30

電話 090-8971-7721 ファクス 089-964-3903 メール t64r59@bma.biglobe.ne.jp

事務局長 青井 美智子